

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



「活動を継続する」ということ

四街道市内には、地域のために長い間活動をしているたくさんの市民団体があります。今回は地域の課題解決のため、長期間努力をされてきた団体に、その活動を支えてきたものは実際にどんなことなのか、お聞きしました。

活動の継続は地域の中で 楽しむことから



身近な自然を見守り続ける

平成元年に設立された「四街道自然同好会」。成山地区の宅地開発が計画された際、このエリアは生物多様性が高く貴重な自然があることを市民に呼びかけ、保全しようと活動をはじめました。活動範囲は市全体に広がり、自然観察会を毎月2回ほど開催しています。さらに地域の学校や保育所の自然体験学習支援も行っています。

代表の晝間初枝ひるまさんは「同じ植物でも昆虫によって食べる部分が変わります。このような違いがあるおかげで、異なる種類の昆虫が共存できるのです」。そんな自然の姿に心打たれ、自然から学ぶことに活動の醍醐味があると話します。

現在114名の会員が在籍していますが、参加目的は人それぞれ。しかし共通するのは四街道の自然への深い愛情と、その自然を次世代にも残していきたいという熱い思いです。自然の美しさと価値を理解し、大切にしようとする熱意は、地域の自然環境を残そうという責任感に満ちて

います。

自然同好会では四街道の自然を見守り続けるため、生き物調査や公園の樹木名札付けを継続しています。また、地域の魅力を広く伝えるために会報「しぜん」を隔月で発行しています。「しぜん」は、写真撮影から文章の作成、構成まで、メンバーが全て手がけています。自然を楽しむ気持ちと専門知識を集結し、魅力的な情報を提供しています。

自然豊かな場所は、その恩恵が私たちにも及びます。その豊かさの目安として、ホタルの生息地が挙げられます。市内にはたろやまの郷や旭ヶ丘など9カ所ものホタルの生息

地があり、夏には多くの市民がホタルやセミの羽化の観察会に参加して楽しんでいます。

これまでは一部の生息地の保全活動を担ってきましたが、生息地や周辺環境の整備は単独で行うことは難しく、多くの市民や他団体、行政との協働が必要です。協働することで、持続可能な自然観察会や保全活動が実現し、地域の自然を共に守り育てることができるのではないかと考えています。そして、この取り組みによって、自然保護や環境問題への理解が深まり、より多くの人々に自然の美しさや重要性が伝わることを願っています。



きて！見て！感動！セミの羽化

連絡先

四街道自然同好会
電話：090-9970-4888（晝間）
Mail：h-hatue13@nifty.com

自然同好会 HP



困りごとがある限り

連絡先

認定NPO法人
たすけあいの会ふきのとう
電話：043-424-0233

一般社団法人
千葉県冒険遊び場ネットワーク
(ちばぼう)
電話：043-254-2328
Mail: chibabo.net@gmail.com

ふきのとうHP



ちばぼうHP



みんなの家ばおにて 楽しく体を動かしてリフレッシュ

たすけあいが広がる地域に

35年前に地域住民同士のたすけあい活動をスタートさせた「認定NPO法人たすけあいの会ふきのとう」。

「みんないっしょに地域で暮らそう」という理念のもと、障がい者や高齢者、子どもなどみんなが大切にされ、生活できる場を目指し活動しています。活動の内容は多岐に渡り、現在は在宅福祉サービスというたすけあい活動だけでなく、介護保険事業をはじめ公の福祉サービスを展開しています。

2000年に介護保険制度が始まった際、在宅福祉サービスを利用していた人から「介護保険を利用するならふきのとうにお願いしたい」という話があったため、団体内で検討し、居宅介護支援事業、訪問介護事業を実施することになりました。活動する中で「この人はヘルパーが帰宅した後、どうしているのだろう」と訪問介護による短時間の支援だけでは足りない方に出会いました。そこで、安心して過ごせる場を提供するために、地域密着型通所介護事

活動継続へのひとつのヒント

活動継続のために、ノウハウや人材を生かしている団体があります。

一般社団法人千葉県冒険遊び場ネットワーク(以下「ちばぼう」)は、県内各地でプレーパークを開催している団体がネットワークを組んで、平成23年に設立。運営に関する研修や立ち上げ支援などの中間支援を行っています。

スタッフのバックグラウンドは環境保全や教育、福祉など多様性に富んでいます。そのため、ちばぼうが提供できるプログラムの内容は幅広く、団体や行政などからも講座や研修などの依頼がきます。そして、その対価は運営のためだけでなく、新たな事業を始める資金として活用しています。

また、新しい人や若い人の意見を取り入れ、互いに協力していくことで柔軟に運営することができます。よりよい形で事業を継続することができます。

このような多様な人材と柔軟な意見交換、将来を見据えた資金の運用が継続へのカギとなるのではないのでしょうか。

業「ふきのとうみんなの家ばお」、さらに、夜間一人で生活できるのか心配な方のために、小規模多機能型居宅介護事業「ふきのとうみんなの家さら」を旭ヶ丘に開設。介護保険による事業収入を利用し、少しずつ事業を増やすことで地域に還元してきました。

それはたすけあいでも介護保険でもない、ただシンプルに「目の前の人の困りごとを解決したい」という思いからです、と設立者の國生美南子さんは話します。

また代表の森明子さんは「今、地域で暮らす人がどうしたら幸せに生活ができるのか、またその活動を支えてくれる人たちを増やしたい。いつも悩みは尽きません」とすべてが順風満帆ではないと言います。けれど、「ふきのとうスピリット」は、若いスタッフに引き継がれていくことを期待しているとのこと。人ととのつながりの中から、自然とたすけあいができる地域は、長い時間をかけ、少しずつ出来上がっていくものなのかもしれません。

ピックアップ①

講演会

子どもの居場所づくり

—TSUGAnoわの実践から—



7月5日に子どもの居場所に関する講演会を開催しました。市内外から30名が参加し、年齢層も幅広く子どもの居場所づくりへの関心の高さがうかがえました。講師は、TSUGAnoわこども食堂・こどもカフェ代表の田中照美さん。「テルさん」の呼び名で親しまれ、地域の方々と一緒に、子どもたちにとって安心安全で楽しい「地域のこども部屋」になるような居場所づくりを実践しています。前半はTSUGAnoわができるまでや、現在の様子、大切にしていることについてお

話があり、後半はテルさんの声かけで円座になり質疑応答となりました。

TSUGAnoわにいるような心地よい雰囲気の中、「思いを形にするには？」という質問には、「胸鳴る方へ」動く、思いを同じくする仲間とやってみるなどのキーワードが出ました。アンケートを見ても「恩送り」、「会ってからだにいい人」、「マルシェ開催による資金集め」など、参加者の数だけ心に残る言葉やエピソードがあり、今後につながるヒントが散りばめられた講演会になりました。

ピックアップ②

アートを通して地域とつながる

「ふるさとまつりをみんなで彩ろう」



8月19、20日に行われたふるさとまつりでは、四街道を盛り上げるアート・プロジェクトとして、市民が絵を描いた約700個の灯籠がアート作品となって会場を彩りました。夜にはライトアップされ、多くの人が作品を楽しんでいました。みんなで地域づくりセンターでも、灯籠を作るワークショップを7月8日と26日に開催し、100名を超える方が参加しました。講師として、現代アーティストの原倫太郎さんと画家の原游さんや、千葉アートネットワーク・プロジェクト(WiCAN) -千葉大学-のメンバーを迎え、参加者は思い思いの絵をのびのび

と描いていました。

みんなで地域づくりセンターでは、このようなワークショップを通して、ふるさと四街道を感じ、地域への関心が広がっていききっかけを作っていきたいと考えています。



ふるさとまつり当日の様子

ピックアップ③

みんなで地域づくりセミナー③

ファンドレイジング講座

～思いを伝え、共感と資金を集めよう～



9月16日、ファンドレイジング・ラボ代表の徳永洋子さんを講師に迎え「ファンドレイジング講座 ～思いを伝え、共感と資金を集めよう～」を開催しました。市内外から14団体20名の参加がありました。

前半は徳永さんから活動を「伝える」ことと「募る」こと、また、共感や寄付を得るためにどんな実践や工夫が必要かを学びました。

後半は自分の団体の活動についてみんなに伝えたいことを1分間(300文字)で話すことができるような紙芝居を作成。いつでもどこでも誰にでも団体のことを

「伝える」ことができるワークを行いました。

参加者からは「メンバーそれぞれが団体の活動についてプレゼンが行えるようになりたいと思いました」「寄付して下さる側に立つことの大切さがとても学びになりました」などの声が寄せられました。

ファンドレイジングは資金を集めることだけが目的ではありません。その団体の活動と人がつながることが重要です。

この講座が、私たちの身近な場所から「社会を変える」一助になることを願っています。

みんなで37号

表紙の写真：

ふきのとうみんなの家さらのスタッフと、リラックスして過ごす利用者の皆さん

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火～金および第1・3土 9：00～17：00

（休館日は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始）

電話：043（304）7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和5年11月1日 発行部数：4,500部

ホームページ



Facebook



地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



「活動を継続する」ということ

四街道市内には、地域のために長い間活動をしているたくさんの市民団体があります。今回は地域の課題解決のため、長期間努力をされてきた団体に、その活動を支えてきたものは実際にどんなことなのか、お聞きしました。

四街道市
みんな
地域づくり
センター

ピックアップ①

講演会
子どもの居場所づくり
—TSUGAnoわの実践から—



7月5日に子どもの居場所に関する講演会を開催しました。市内外から30名が参加し、年齢層も幅広く子どもの居場所づくりへの関心の高さがうかがえました。講師は、TSUGAnoわ子ども食堂・子どもカフェ代表の田中照美さん。「テルさん」の呼び名で親しまれ、地域の方々と一緒に、子どもたちにとって安心安全で楽しい「地域のこども部屋」になるような居場所づくりを実践しています。前半はTSUGAnoわができるまでや、現在の様子、大切にしていることについてお

話があり、後半はテルさんの声かけで円座になり質疑応答となりました。TSUGAnoわにいるような心地よい雰囲気の中、「思いを形にするには？」という質問には、「胸鳴る方へ」動く、思いを同じくする仲間とやってみるなどのキーワードが出ました。アンケートを見ても「恩送り」、「会ってからだにいい人」、「マルシェ開催による資金集め」など、参加者の数だけ心に残る言葉やエピソードがあり、今後につながるヒントが散りばめられた講演会になりました。

ピックアップ②

アートを通して地域とつながる
「ふるさとまつりをみんなで彩ろう」



8月19、20日に行われたふるさとまつりでは、四街道を盛り上げるアート・プロジェクトとして、市民が絵を描いた約700個の灯籠がアート作品となって会場を彩りました。夜にはライトアップされ、多くの人が作品を楽しんでいました。みんなで地域づくりセンターでも、灯籠を作るワークショップを7月8日と26日に開催し、100名を超える方が参加しました。講師として、現代アーティストの原倫太郎さんと画家の原遊さんや、千葉アートネットワーク・プロジェクト(WiCAN) - 千葉大学 - のメンバーを迎え、参加者は思い思いの絵をのびのび

と描いていました。みんなで地域づくりセンターでは、このようなワークショップを通して、ふるさと四街道を感じ、地域への関心が広がっていききっかけを作っていきたいと考えています。



ふるさとまつり当日の様子

ピックアップ③

みんなで地域づくりセミナー③
ファンドレイジング講座
～思いを伝え、共感と資金を集めよう～



9月16日、ファンドレイジング・ラボ代表の徳永洋子さんを講師に迎え「ファンドレイジング講座 ～思いを伝え、共感と資金を集めよう～」を開催しました。市内外から14団体20名の参加がありました。

「伝える」ことができるワークを行いました。

前半は徳永さんから活動を「伝える」ことと「募る」こと、また、共感や寄付を得るためにどんな実践や工夫が必要かを学びました。

参加者からは「メンバーそれぞれが団体の活動についてプレゼンが行えるようになりたいと思いました」「寄付してくださる側に立つことの大切さがとても学びになりました」などの声が寄せられました。

後半は自分の団体の活動についてみんなに伝えたいことを1分間(300文字)で話すことができるような紙芝居を作成。いつでもどこでも誰にでも団体のことを

ファンドレイジングは資金を集めることだけが目的ではありません。その団体の活動と人がつながることが重要です。

この講座が、私たちの身近な場所から「社会を変える」一助になることを願っています。

みんな37号

表紙の写真：
ふきのとうみんなの家からのスタッフと、リラックスして過ごす利用者の皆さん

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火～金および第1・3土 9:00～17:00

(休館は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始)

電話：043 (304) 7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和5年11月1日 発行部数：4,500部

ホームページ



Facebook



困りごとがある限り

連絡先

認定NPO法人
たすけあいの会ふきのとう
電話：043-424-0233

一般社団法人
千葉県冒険遊び場ネットワーク
(ちばぼう)
電話：043-254-2328
Mail：chibabo.net@gmail.com

ふきのとうHP



ちばぼうHP



みんなの家ばおにて 楽しく体を動かしてリフレッシュ

たすけあいが広がる地域に

35年前に地域住民同士のたすけあいの活動をスタートさせた認定NPO法人たすけあいの会ふきのとう。「みんないっしょに地域で暮らそう」という理念のもと、障がい者や高齢者、子どもなどみんなが大切にされ、生活できる場を目指し活動しています。活動の内容は多岐に渡り、現在は在宅福祉サービスというたすけあいの活動だけでなく、介護保険事業をはじめ公の福祉サービスを展開しています。

2000年に介護保険制度が始まった際、在宅福祉サービスを利用して来た人から「介護保険を利用するならふきのとうにお願いしたい」という話があったため、団体内で検討し、居宅介護支援事業、訪問介護事業を実施することになりました。

活動する中で「この人はヘルパーが帰宅した後、どうしているのだろう」と訪問介護による短時間の支援だけでは足りない方に出会いました。そこで、安心して過ごせる場を提供するために、地域密着型通所介護事

活動継続へのひとつのヒント

活動継続のために、ノウハウや人材を生かしている団体があります。

一般社団法人千葉県冒険遊び場ネットワーク(以下「ちばぼう」)は、県内各地でプレーパークを開催している団体がネットワークを組んで、平成23年に設立。運営に関する研修や立ち上げ支援などの中間支援を行っています。

スタッフのバックグラウンドは環境保全や教育、福祉など多様に富んでいます。そのため、ちばぼうが提供できるプログラムの内容は幅広く、団体や行政などからも講座や研修などの依頼がきます。そして、その対価は運営のためだけでなく、新たな事業を始める資金として活用しています。

また、新しい人や若い人の意見を取り入れ、互いに協力していくことで柔軟に運営することができます。よりよい形で事業を継続することができます。

このような多様な人材と柔軟な意見交換、将来を見据えた資金の運用が継続へのカギとなるのではないでしょう。

業「ふきのとうみんなの家ばお」、さらに、夜間一人で生活できるの心配な方のために、小規模多機能型居宅介護事業「ふきのとうみんなの家さら」を旭ヶ丘に開設。介護保険による事業収入を利用し、少しずつ事業を増やすことで地域に還元してきました。

それはたすけあいで介護保険でもない、ただシンプルに「目の前の人の困りごとを解決したい」という思いからです、と設立者の國生美南子さんは話します。

また代表の森明子さんは「今、地域で暮らす人がどうしたら幸せに生活ができるのか、またその活動を支えてくれる人たちを増やしたい。いつも悩みは尽きません」とすべてが順風満帆ではないと言います。けれど、「ふきのとうスピリット」は、若いスタッフに引き継がれていくことを期待しているとのこと。人と人のつながりの中から、自然とたすけあいができる地域は、長い時間をかけ、少しずつ出来上がっていくものなのかもしれません。



活動の継続は地域の中で楽しむことから

身近な自然を見守り続ける

平成元年に設立された「四街道自然同好会」。成山地区の宅地開発が計画された際、このエリアは生物多様性が高く貴重な自然があることを市民に呼びかけ、保全しようと活動をはじめました。活動範囲は市全体に広がり、自然観察会を毎月2回ほど開催しています。さらに地域の学校や保育所の自然体験学習支援も行っています。

代表の晝間初枝さんは「同じ植物でも昆虫によって食べる部分が変わります。このような違いがあるおかげで、異なる種類の昆虫が共存できるのです」。そんな自然の姿に心打たれ、自然から学ぶことに活動の醍醐味があると話します。

現在114名の会員が在籍していますが、参加目的は人それぞれ。しかし共通するのは四街道の自然への深い愛情と、その自然を次世代にも残していきたいという熱い思いです。自然の美しさや価値を理解し、大切にしようとする熱意は、地域の自然環境を残そうという責任感に満ちて



きて！見て！感動！セミの羽化

連絡先

四街道自然同好会
電話：090-9970-4888 (晝間)
Mail：h-hatue13@nifty.com

自然同好会HP



います。

自然同好会では四街道の自然を見守り続けるため、生き物調査や公園の樹木名札付けを継続しています。また、地域の魅力を広く伝えるために会報「しぜん」を隔月で発行しています。「しぜん」は、写真撮影から文章の作成、構成まで、メンバーが全て手がけています。自然を楽しむ気持ちと専門知識を集結し、魅力的な情報を提供しています。

自然豊かな場所は、その恩恵が私たちに及びます。その豊かさの目安として、ホタルの生息地が挙げられます。市内にはたろやまの郷や旭ヶ丘など9カ所ものホタルの生息

地があり、夏には多くの市民がホタルやセミの羽化の観察会に参加して楽しんでいます。

これまでは一部の生息地の保全活動を担っていましたが、生息地や周辺環境の整備は単独で行うことは難しく、多くの市民や他団体、行政との協働が必要です。協働することで、持続可能な自然観察会や保全活動が実現し、地域の自然を共に守り育てることができるようにはなっていないかと考えています。そして、この取り組みによって、自然保護や環境問題への理解が深まり、より多くの人々に自然の美しさや重要性が伝わることを願っています。